



あわら市の中学生が来訪！教育交流事業

歴史のつながりを学び、よりよい学校づくりを語り合う

8月17日と18日に、あわら市から約20名の生徒会役員らを下妻市にお迎えし、本市の生徒約30名と交流を深める教育交流事業を実施しました。

下妻市と福井県あわら市は姉妹都市であることから、次世代を担う中学生が絆を深めるための交流を1年交代で実施しています。

初日は市庁舎での歓迎式の後、biasパークしもつまで夕食・交流会を開催し、翌18日には下妻中学校で「合同リーダー研修会」を行いました。研修に先立って、ジュニアユースサポーターから、かつて下妻城主だった多賀谷氏ゆかりの歴史的なつながりを学んだ後、「よりよい学校づくり」をテーマに、お互いの学校の課題について熱心に意見を交わしました。

同世代の仲間と直接語り合う経験は、生徒たちにとって大きな刺激になったようです。この教育交流事業を通じて、下妻市とあわら市の絆がさらに強まることが期待されます。

☒ 学校支援課



よりよい学校づくりについて活発な意見が交わされました



英国の伝統的な雰囲気漂う空間での食事を楽しみました

☒ 学校支援課

大人のための英会話教室を開催

下妻市では、8月から9月にかけて全5回、「大人のための英会話教室」を開催しました。市職員のALT（英語指導助手）のブレンドン・リード講師により、実践的な英語を楽しみながら学びました。

参加者はレベルに応じた二つのコースで英語を学びました。初級の「English Cafe」では旅行やレストランで使える英会話などを、中級の「English Table」ではディスカッションを通して活発なコミュニケーションを図るなど、意欲的に学べる充実した時間となりました。

また今回は、市が推進するキャリア教育「しもつま未来学」の一環で、中学生ジュニアユースサポーターが講師と協力しながら受講者をサポートしました。大人が楽しく英語を学ぶ傍らで、中学生も地域の方々と深く関わり、下妻の発展に向けてともに協力し合う意識を育む、温かい交流の機会にもなりました。

☒ 学校支援課



ジュニアユースサポーターが受講生の英会話学習をサポート

中学生英語キャンプで異文化体験！

8月8日から10日までの3日間、福島県の「ブリティッシュヒルズ」にて、市内の中学生23名が参加し、中学生英語キャンプを実施しました。

このキャンプでは、生徒たちは滞在中、8つの実践的な英語レッスンを受講しました。また、マナーハウスツアーや夕食時のテーブルマナー講習なども体験し、英国文化を肌で学ぶ貴重な機会となりました。

最終日の卒業プログラムでは、キャンプで学んだスピーチスキルを活かして、参加者全員が英語でのスピーチに挑戦し、自分たちの英語力の向上を実感しました。

この取り組みを通じて、生徒たちは英語力や学習意欲を高めるとともに、国際性を育むための大きな一歩を踏み出しました。

☒ 学校支援課

下妻市の魅力にツッコミ！

インパルス・堤下敦さんが「下妻ツッコミ宣伝大使」に就任

8月22日、「下妻まつり2026」のオープニングセレモニーにて、お笑いコンビ「インパルス」の堤下敦さんが、「下妻ツッコミ宣伝大使」に就任しました。

これまで堤下さんは、市内の温泉施設「biasパークしもつま」のイベントに出演されるなど、本市と交流を重ねてきました。この縁に加え、お笑いのセンスや高い発信力を生かした市の魅力発信とイメージ向上に寄与していただくことが期待されています。

委嘱式では菊池市長からタスキと委嘱状、特産の「梨」が手渡されると、堤下さんは大喜びの笑顔を見せてくれました。「下妻市のいろいろなところをつっこんでいきたい」と力強い抱負を語り、その後のステージで司会も務め、会場を大いに盛り上げてくれました。

☒ 農業政策課



明るいツッコミで下妻の魅力を発信する堤下さん



ミニ講座では、参加者全員で脳トレ体操に挑戦

正しい知識で支え合う、安心して暮らせる地域づくりに向けて 認知症サポーター養成講座を開催

9月の「茨城県認知症を知る月間」に合わせ、9月5日に下妻市福祉センター砂沼荘において、認知症サポーター養成講座を開催しました。

認知症は誰もがなりうる病気です。この講座は、認知症の方やご家族が住み慣れた地域で自分らしく暮らせるよう、正しい理解を深めることを目的に実施しました。

会場では、講話や寸劇で認知症への理解を深められたほか、ミニ講座として脳トレ体操を行い、楽しく体を動かしました。また、地域の介護従事者やウエルシア薬局の薬剤師の協力により実施しましたお薬相談や健康測定も好評でした。

下妻市では、これからも皆様と共に、安心して暮らせる地域づくりを進めてまいります。

☒ 長寿支援課

認知症を「自分ごと」として考える！

認知症講演会を開催

9月6日、千代川公民館において、認知症になっても希望を持ち、自分らしく暮らし続けられる「やさしいまちづくり」を目指すことを目的に、市民向け認知症講演会を開催しました。

第1部では、実話に基づく映画『オレンジランプ』を上映し、参加者は、当事者のリアルな日常や前向きな歩みに触れ、熱心に見入っていました。第2部では、下妻市での活動や取り組みを報告し、やさしいまちづくりのためにできることを参加者とともに共有しました。

講演会を通して、認知症になっても「先回りをして全部やってあげるのではなく、本人の力を信じて、できないところだけをそっと支える」という新しい認知症観について考える時間となりました。

市は認知症を特別なことではなく、自分事として捉え、理解を深めていくための取り組みを推進してまいります。

☒ 長寿支援課



「新しい認知症観」について、会場全体で共有しました